



安宅 コレクション

美の求道者・安宅英一の眼

THE EYES OF ATAKA EIICHI, SEEKER OF TRUE ART
Selected Chinese and Korean Ceramics from the Ataka Collection

主催/福岡市美術館、読売新聞西部本社、FBS福岡放送、大阪市立東洋陶磁美術館 ■後援/(財)福岡市文化芸術振興財団
■特別協賛/味の明太子、ふくや ■協賛/損保ジャパン、(財)福岡文化財団

観覧料/一般1300円(1100円) 高大生900円(700円) 小中生400円(200円)

()内は前売料2200名以上の団体、シルバー手組、要着手組、身体障害者手組、精神障害者保護福祉手組用特等料金を、お申し込みください。お申し込みは福岡市美術館(TEL:092-714-6051)まで。お申し込みはウェブチケット(Lコード:80644)、チケットぴあ(Lコード:687407)ほかで販売。

平成20年1月5日[土]~2月17日[日] 福岡市美術館 | 特別展示室A

月曜休館(ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日が休館) 午前9時30分開館~午後5時30分閉館(入館は午後5時まで) 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL.092-714-6051



重要文化財/青磁鳳凰耳花生

重要文化財/青磁刻花牡丹唐草文瓶

辰砂松鶴文壺

重要文化財/
瑠璃地白花牡丹文盤

重要文化財/
緑釉黒花牡丹文瓶

安宅コレクション THE EYES OF ATAKA EIICHI, SEEKER OF TRUE ART

Selected Chinese and Korean Ceramics from the Ataka Collection

安宅コレクションとは、かつて日本の十大商社の一つであった安宅産業株式会社が、事業の一環として収集した約1,000点にもおよぶ東洋陶磁コレクションです。その収集を一貫して推進・指導し、鑑賞者としての厳しい眼をもち比類のないコレクションにまで築きあげたのが同社の取締役会長だった安宅英一氏でした。しかしながら不幸なことに安宅産業は昭和52年に事実上の倒産に追い込まれ、コレクションの行方について世間の大きな関心呼びました。幸いなことに安宅産業の主力銀行であった住友銀行を中心とする住友グループ21社により、コレクションは大阪市に寄贈され、散逸を免れることができました。大阪市はそれを受けて昭和57年、北区中之島に大阪市立東洋陶磁美術館を設立し、現在に至っています。

今回の展覧会は、国宝2点、重要文化財12点をはじめ初公開作品、関連資料など約200点の作品で構成しており、かつてない規模と安宅コレクションの最良の作品群により紹介する画期的な内容となっています。これにより安宅コレクションの形成過程とともに、その生みの親ともいえる安宅英一氏の優れた選択眼にせまります。美術品に対する価値判断の基準が多様化しつつある現在、安宅英一氏の眼の軌跡をたどり、その本質を問い直すことによって、流行に左右されず時を超えて今なお人の心を捉えて離さない古陶磁の美の真髄を理解する一助とならんことを願います。



重要文化財/青花蓮池魚藻文壺

青花辰砂蓮花文壺

青磁陽刻牡丹蓮花文鶴首瓶

講演会 平成20年1月5日(土)午後15時30分~17時(福岡市美術館講堂(1階))
 演題「安宅コレクションの歴史と特質」
 のごあんない 講師—伊藤郁太郎氏(大阪市立東洋陶磁美術館館長)

●聴講費希望の方は、往復はがき(1枚1名様)に、住所、氏名、電話番号をお書きの上、下記までお申し込み下さい。12月25日(火)必着。
 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 福岡市美術館内 安宅コレクション展講演会係



- 交通のごあんない**
- 地下鉄 ■ 駅**
- 空港から15分、博多駅から10分、天神から5分で大濠公園下車、3番出口より徒歩10分。
 - 天神南から8分で六本松下車、2番出口から徒歩10分。
- バス ■ バス停**
- 博多駅から交通センターより[系統番号13・140]で城内美術館東口下車、徒歩3分。
 - 天神から協和ビル前より[系統番号13・140]で城内美術館東口下車、徒歩3分、[系統番号12]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。天神コアビル前より[系統番号7・14・200・201・204・206]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。
- 車**
- 福岡空港から30分、博多駅から20分、天神から10分。